

ENGAWA



“竹”の活用で新たな価値を創る

地域資源活用研究会 × 浜松里山竹クラブ
(みんなのはままつ創造プロジェクト)

浜松市で増え続ける放置竹林。その現状や竹の魅力について親子で楽しく学んでもらおうと、8月20日、北区引佐町井伊谷の正泉寺で『第2回 竹を親しむ体験会』が開かれました。里山の保全・活用に取り組む「浜松地域資源活用研究会」が企画したもので、大人から子どもまで50人以上がイベントを楽しみました。

当日は、竹林整備や体験会などを実施する「浜松里山竹クラブ」のメンバーが講師を務め、竹林整備をはじめ、クラフト体験、流しそうめん体験、伐採・粉砕の実演などを行いました。このイベントで粉砕した竹は館山寺の畜産農家に持って行き、豚の飼料に使います。竹で育てた豚は、栄養豊富で良質な肉になると言われています。

11月には、県内外から市民活動団体や企業が集まって交流する「竹資源活用フォーラム」も開催予定です。多様な団体との連携を通して、今後も市民による新しい竹林整備の仕組みづくりが進んでいくことが期待されます！

=発行=

浜松市市民協働センター

開館時間 9:00～21:30

休館日 年末年始(12/29～1/3)

〒430-0929 浜松市中区中央一丁目13-3

TEL.053-457-2616 FAX.053-457-2617

目次

特集 p2～3

自分たちの地域を自分たちの手で ～和地ふるさと会～

pick Up!! p4

インターン生・中野君のまちづくりレポート

パートナーシップ・ミーティング2017開催報告

地域の景観を次世代へ ー和地ふるさと会ー

誰にも手を付けられず、荒れていく土地や河川……。高齢化や人口減少に伴い、これまでのように“まちづくり”を行政だけに頼ることが難しい時代になりつつあります。そのような中、地域の維持・保全活動に10年以上前から取り組んでいる「和地ふるさと会」にお話を伺い、これからのまちづくりに必要な視点について考えます。

豊かな自然を取り戻すため

浜名湖の東岸、浜松西インターを有する和地地域。新興住宅地や、大規模な小中学校などがあり、人口減少とは無縁の地域に見えます。しかし近年、農業従事者の高齢化などの影響で、耕作放棄された田畑が目立つようになり、草木で荒れた土地には産業廃棄物などが捨てられるようになりました。

そのような状況に危機感を覚え、「地域一丸となって昔の豊かな自然を取り戻そう」と平成19年に立ち上がったのが和地ふるさと会です。

小さな活動から始まった地域づくり

「地域を何とかしたい!」という機運が高まる中、国が交付している『農地・水保全管理交付金』を活用し、地元の6団体が連携して環境整備を始めました。

はじめは、地域ごとに拠点を定め、耕作放棄地の解消と不法投棄されたゴミ処理からのスタートでした。今では解消された土地を活用して、季節ごとに菜の花やひまわり、コスモスなどを植えたり、復田した水田でもち米を栽培したりと、地域の景観づくりに貢献しています。

また、もち米の生育過程で様々な体験イベントを実施しており、子どもたちの学びの場にもなっています。収穫したもち米は、地域の「協働センターまつり」で振舞ったり、地元の幼稚園へ提供したりしています。



協働で新たな地域資源を生み出す

和地ふるさと会では、新たな地域資源を約10年間で作り上げてきました。地域を流れる川の堤防には、800mにわたって「河津桜」を400本植樹しました。平成27年から「大山町桜まつり」を開催し、3年目を迎えた今年は、約2万人もの人が訪れました。

また、「一社一村しずおか運動」(*)の一環で平成26年度から『株式会社 知久』とパートナーシップを結び、地域づくりに取り組んでいます。耕作放棄地を活用して梅を240本植樹した場所では、「梅狩り体験」を協働で開催しています。毎年200名以上が参加し、イベントは大盛況です。



美しく生まれ変わった堤防

*1 一社一村しずおか運動

企業と農村が協働活動することで、静岡の農山村地域の活性化を図る運動です。「人手がほしい／交流を増やしたい／一緒に特産品を開発したい」という農村の要望と、「社会貢献したい／社員の福利厚生に活用したい／地域の資源をビジネス化したい」という企業の要望の双方を結びつけ、都市と農村の交流を生み出し、地域の活性化を促進させるための取り組みを行います。



和地ふるさと会の皆さん

継続の秘訣は「楽しむ」こと！

今受けている交付金は、人件費にも充てることができます。これがとても重要で、「気持ちはあるけれど、気持ちだけではなかなか続けられない」という方も多いのが事実です。

また、以前ラジオで聞いた、NPO法人グラウンドワーク三島の合言葉『右手にスコップ、左手に缶ビール』という言葉がとても良いと思っていて、私たちも活動の後に昼食会を行ったり、年に一度は収穫祭を行ったりしています。

午前中はボランティア活動をし、午後はその日もらった日当を使えば、少ない個人負担で昼食会などを楽しむことができます。このように、活動を行う結果として楽しいひと時を過ごすことができるので、みんな進んで協力してくれます。

美しい地域を後世につなぎたい

地域の環境整備活動を続けて約10年になります。整備したところを散歩する人が増え、生物や野鳥の種類も増えてきました。作業をしている時に、散歩で歩いてきてくれた人が『ご苦労さます』と言ってくれることが本当に嬉しいです。

一方、課題に感じていることは「後継者問題」です。多くのボランティア団体が抱えている問題でもあり、後継者不足に悩む農家の皆さんと同じ状況のように感じます。

今後は、新しく何かをするというより、今のきれいになった景観を後世へと残していきたいです。そのためにも、より多くの若者を取り込んでいけたらと思っています。

取材協力 和地ふるさと会
事務局長 山下 昌利 さん

人口減少や高齢化が進む中、地域を維持していくためには住民の力がますます重要になります。まずはできるところから、小さく始めてみてはいかがでしょうか？

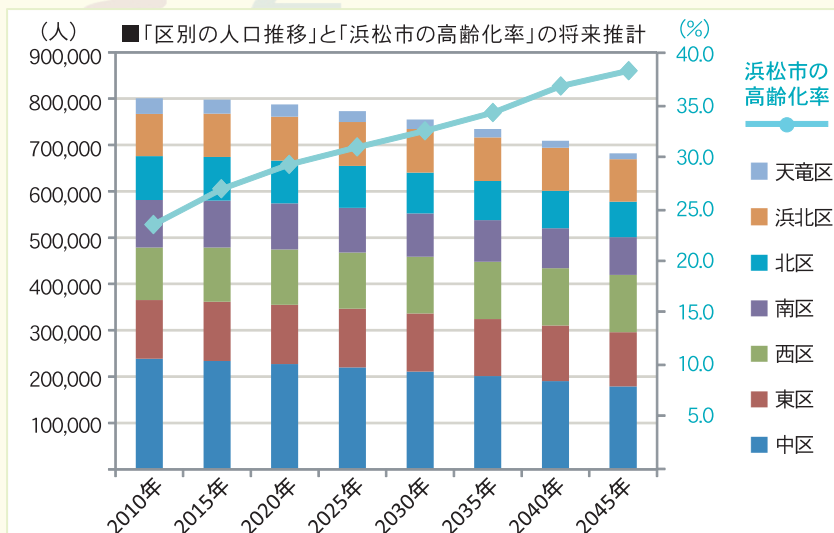
地道な活動の積み重ねは、きっと地域の大きな力へとつながっていくはずです！

コラム



これからどうなる?? /

浜松市の人口推移



浜松市の総人口は、2045年には70万人を下回り、高齢化率が40%に近付くと予想されています。

高齢化・人口減少が進む中、市民主体のまちづくりの重要性はますます高まっています。

地域に受け継がれる素晴らしい自然や、文化や伝統、知恵を次世代につなげていくため、何が出来るか考え、実践していくことが大切です。

「行動したいけど、何から始めれば…」
そんな地域づくりのご相談も、市民協働センターをお気軽にご利用ください。
一歩を踏み出すお手伝いをいたします！

参照：
浜松市企画調整部企画課
『浜松市の将来推計人口
(平成25年3月推計)』





センター2階では、中野君がまとめたNPOに関する統計データの展示や、運営に役立つおすすめ書籍の無料貸し出しをしています♪

インターン生・中野君のまちづくりレポート 市民活動団体の活躍におどろき！

大学の授業の一環で6週間、浜松市市民協働センターでインターンシップをさせていただきました、浜松学院大学3年生の中野智晴です。

研修では、市民協働センターを利用される方への接客、浜松市のNPO法人団体に関する統計の調査、「和地ふるさと会」さんの取材の同行等をさせていただきました。

浜松市内にはNPO団体だけでも255団体もあり、それぞれの団体が自分たちのやり方で行政の手が行き届かないサービスをおこなっていることを知りました。

NPOだけでなく市内には、多くのボランティア団体・企業・学生団体など多くの人々が関わっていることが分かりました。「市民活動」という言葉自体、いままで馴染みがなかったため、こんなにも多くの活動が浜松市で実践されていることに大変驚きました。

行政による地域課題の解決が先送りになっているなかで、市民が主体的になって解決する必要性がますます求められていることを実感する機会となりました。

これからのまちづくりは、地域の当事者が主体的になって、NPO・企業等と協力しながら、自分たちの手で支えることが必要とされていると感じました。私自身もこれから“まちづくり”の場に積極的に関わっていきたく強く思います。

開催報告

パートナーシップ・ミーティング2017を開催しました！

地域づくりに関わるNPO・企業・行政・学校など多様な組織が一堂に会し、共により良い社会の創造を目指す「協働のパートナー」を探す機会として、7月30日（日）、浜松市市民協働センターにて『パートナーシップ・ミーティング』を開催しました。

今年度は、市内外で活躍する企業やNPO、計44団体が活動紹介ブースを出展し、日頃の活動のPRを行いました。

センターホームページでは、参加団体の活動概要や連携に対する思いをまとめた冊子『協働のタネ』を掲載！

「どんなNPOが活躍しているのか知りたい」「企業のCSRについて知りたい」「他団体とネットワークを広げたい」などの思いを持っている皆さま！ぜひ、市民協働センターホームページをご覧ください。

浜松市市民協働センター

検索

